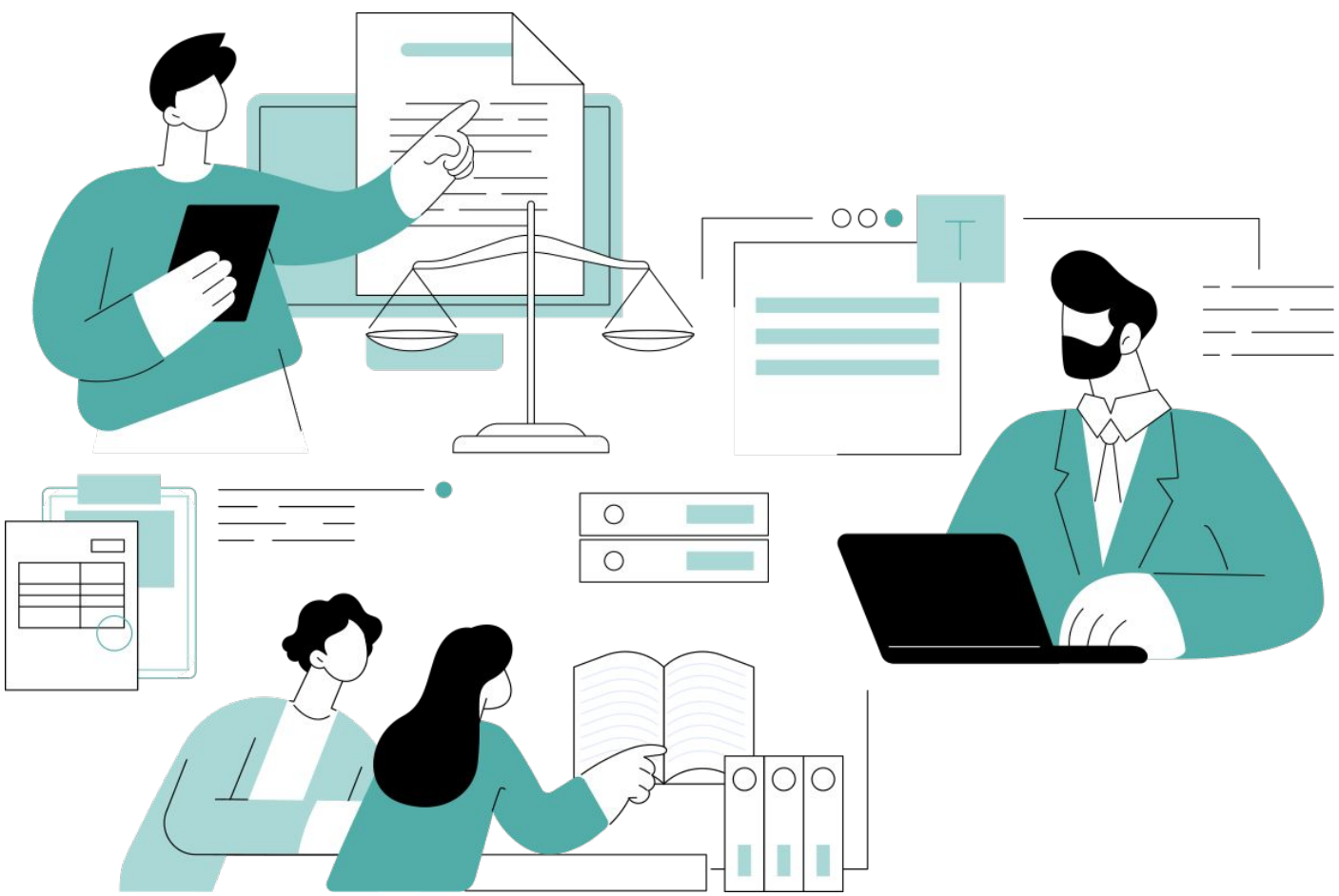
BoostDraft

法務200名調査

契約書レビューにおける「形式面の作業負担」の実態調査

法務の時間を奪う作業1位は「条文参照・条文番号のズレ直し」71.5%

―AIレビュー導入が進む一方、2割は紙に印刷して目視チェック



調査テーマ：契約書レビューにおける形式面の作業負担に関する実態調査

調査日：2026年5月14日　調査対象：企業の法務実務に携わる担当者・責任者

調査方法：オンライン上でのアンケート調査　有効回答数：200名

調査企画：株式会社BoostDraft　調査実施：弁護士ドットコム株式会社 BUSINESS LAWYERS

© 2026 BoostDraft, Inc.

AI時代における
契約書レビューの効率化

近年、生成AIの普及やリーガルテックの進化により、法務業務の自動化・効率化への期待がかつてないほど高まっています。契約書の作成や審査における定型的なプロセスの多くがデジタル化されつつある一方で、法務の現場からは「依然として契約書レビューにおける細かな非効率が発生しており、リソースが圧迫されている」という声が根強く聞かれます。

本レポートでは、企業の法務実務に携わる200名を対象に実施したアンケート調査の結果を基に、日々の契約書レビュー業務で多くの法務担当者が直面している「形式的作業」の具体的な実態を読み解きます。また、これらの作業が積み重なることで組織にもたらされる潜在的なリスクや負担を明らかにし、これからのAI時代にこそ求められる真の生産性向上のあり方について考察します。

© 2026 BoostDraft, Inc.

目次

01 法務の7割以上が負を感じる
契約書レビューの「形式的作業」の実態

02 些細な手直しが招く深刻な弊害
約6割が懸念する「内容検討の質低下」という本末転倒

03 Wordでの対策や従来のアナログなアプローチも
根強く残る

04 対策を行うも、約8割はなお改善の余地を実感

05 AI時代だからこそ求められる真の生産性向上

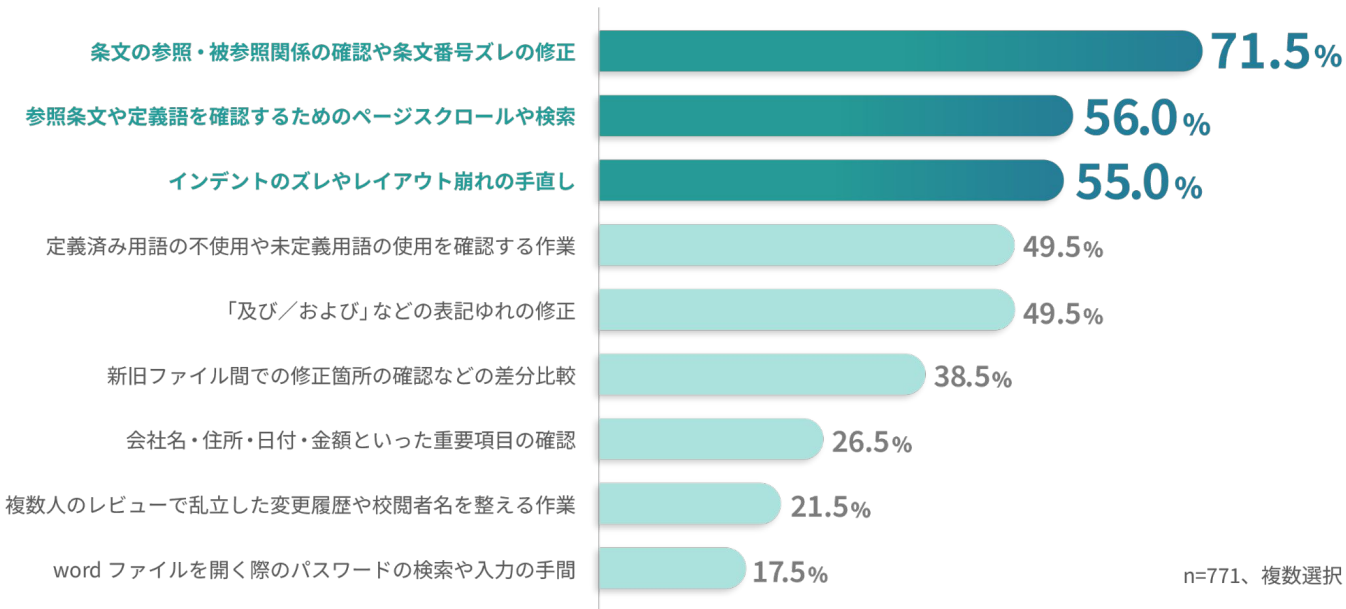
ご紹介 法務向け総合文書エディタ「BoostDraft」
で契約審査の効率化を実現

© 2026 BoostDraft, Inc.

01 法務の7割以上が負を感じる、契約書レビューの「形式的作業」の実態

契約書レビュー業務において、本来の法的判断やリスクの評価とは直接関係がないにもかかわらず、「つい時間を取られてしまう作業」について尋ねたところ、法務現場が抱える細かな手直しの多さが浮き彫りになりました。

Q 契約書レビュー業務において「つい時間が取られてしまう作業」は？



n=771、複数選択

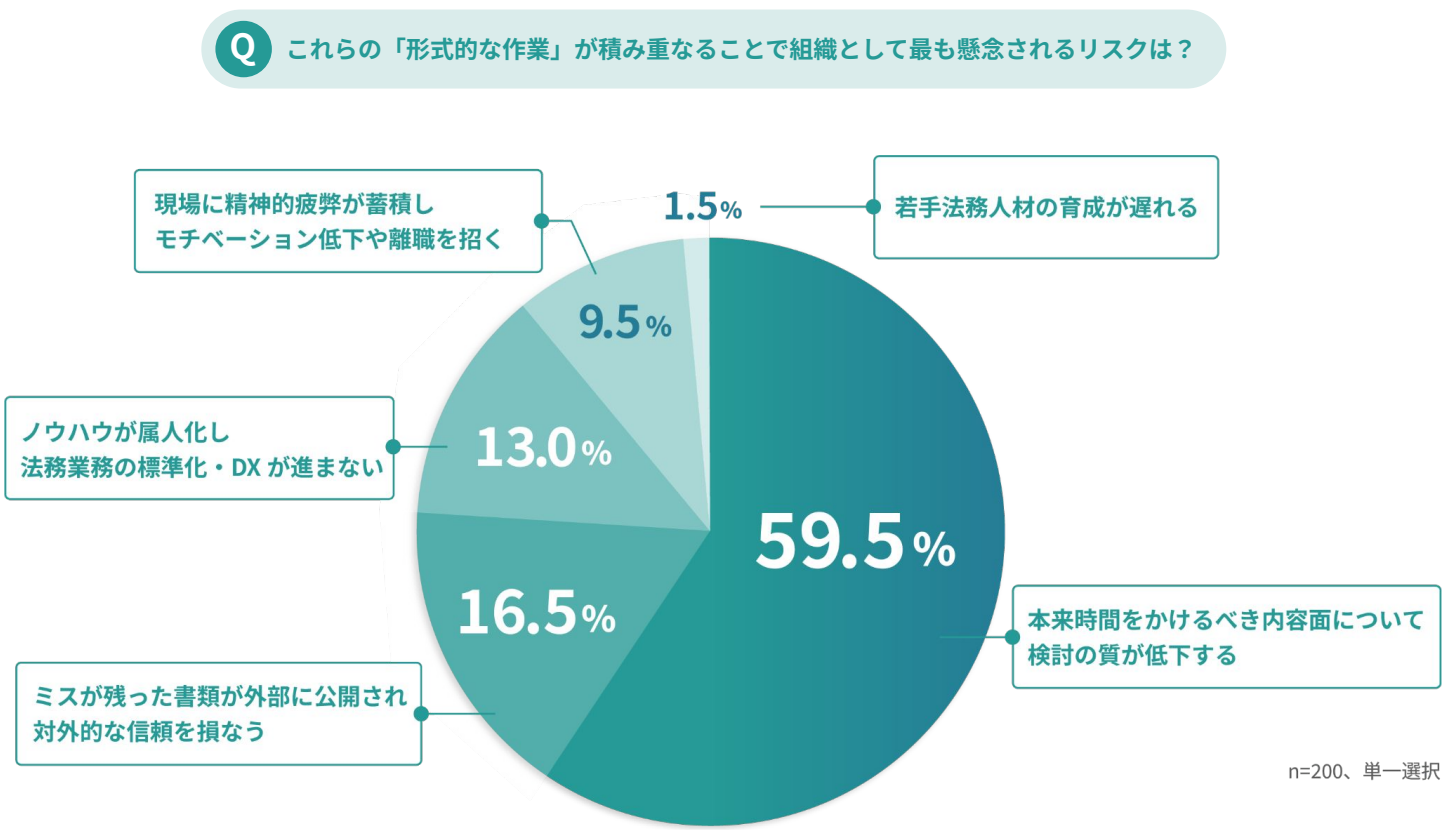
最も多くの法務担当者が時間を取られていると回答したのは、**「条文の参照・被参照関係の確認や、条文番号ズレの修正」(71.5%)**でした。条文の追加・削除に伴う番号のズレや、それに関連する他条文との紐付け確認は、極めて煩雑でありながら1つのミスも許されない作業であるため、その負担の大きさが窺えます。

さらに、**「ページ上下のスクロールや検索」(56.0%)**や**「インデントのズレやレイアウト崩れの手直し」(55.0%)**が半数を超えており、目視確認や手作業による微調整が、日々のレビュー時間を奪っている実態が明確になりました。本文とは別に作成した定義集とレビュー中の条文を何度も往復するような、物理的な視点移動の多さが、疲弊を加速させていると言えるでしょう。

© 2026 BoostDraft, Inc.

02 些細な手直しが招く深刻な弊害 約6割が懸念する「内容検討の質低下」という本末転倒

これら一見「些細」に見える形式的な作業が積み重なることで、組織全体にどのような弊害が生まれるのか。最も懸念される組織的リスクを尋ねました。



調査の結果、実に**約6割 (59.5%)の法務が「本来時間をかけるべき内容検討の質が低下する」**ことを最大の懸念として挙げました。契約書レビューの本質は、自社が被る法的リスクの洗い出し、取引条件の妥当性評価、そしてビジネスを優位に進めるための文言交渉にあります。しかし、形式的な整合性を持たせることに集中力や時間を浪費してしまい、肝心の内容面へのリソースが削られるという本末転倒が発生しています。

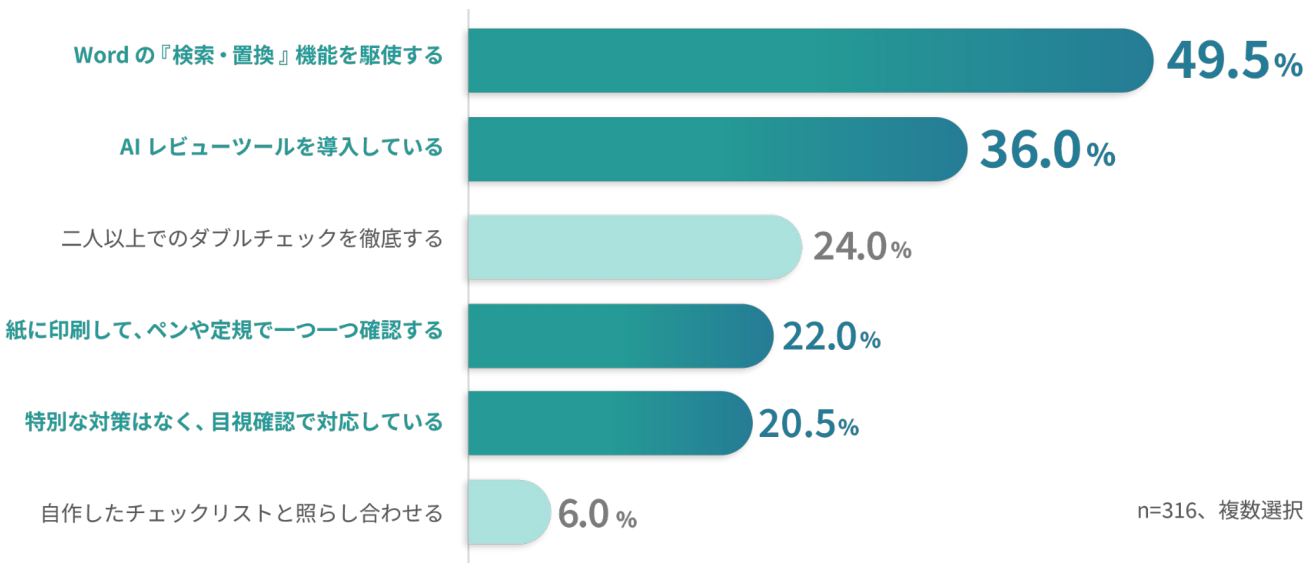
次いで、**「対外的な信頼を損なう」(16.5%)**、**「業務の標準化・DXが進まない」(13.0%)**が続いており、形式面の不備がブランド毀損や組織の業務変革を阻む要因として捉えられていることが分かります。

© 2026 BoostDraft, Inc.

03 Wordでの対策や従来のアナログなアプローチも根強く残る

現在、各企業が形式面のミスを防ぐために行っている対策と、それに対する現場の実感（本音）についても尋ねました。

Q 形式面のミスを防ぐために現在行っている対策は？



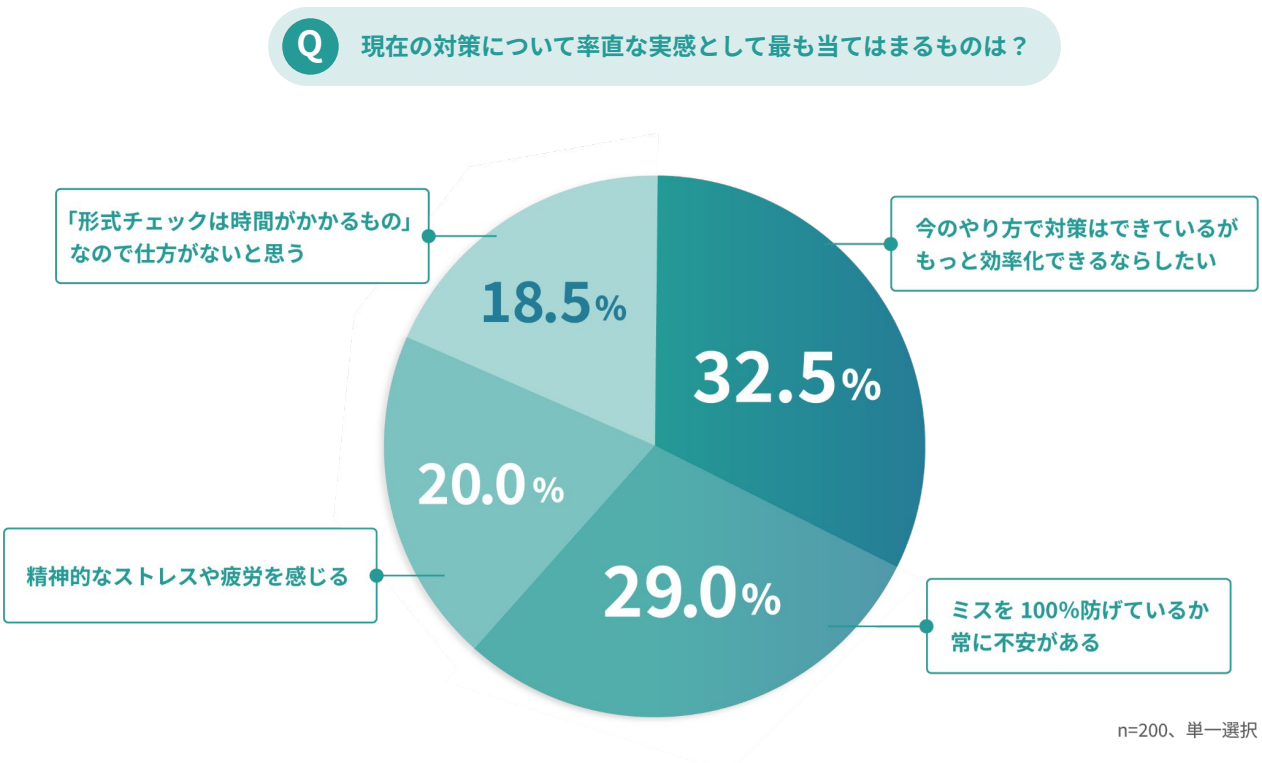
n=316、複数選択

形式面のミス防止策としては**「Wordの『検索・置換』機能を駆使する」(49.5%)**が最も多く、約半数を占めています。また、昨今のトレンドである**「AIレビューツールを導入している」(36.0%)**も一定進んでいる様子がわかります。しかし、その一方で**「紙に印刷して、ペンや定規で一つ一つ確認する」(22.0%)**や**「特別な対策はなく、目視確認で対応している」(20.5%)**といった、従来のアナログなアプローチも根強く残っていることが判明しました。

© 2026 BoostDraft, Inc.

04 対策を行うも約8割はなお改善の余地を実感

注目すべきは、何らかの対策やツール導入をしてもなお、**約半数の層がネガティブな感情を抱えながら業務を行っている**という事実です。



具体的には、**「ミスを100%防げているか、常に不安がある」(29.0%)**、**「精神的なストレスや疲労を感じる」(20.0%)**という回答が並びました。Wordの検索・置換や汎用AIツールを使ってチェックを自動化しようとしても、結局「本当に漏れがないか」を確認するために、最後は人間の目視によるダブルチェックや再確認が必要になり、これが現場に強い心理的プレッシャーを与えていることが窺えます。

さらに、**「効率化できるならしたい」(32.5%)**という現状改善への意欲が高い層まで含めると、**実に81.5%が現状のやり方に「不安」「ストレス」「さらなる効率化の余地」のいずれかを感じています。**現場の心理的負担を軽減しながら、確実かつ効率的に形式チェックを行える新しいソリューションへのニーズは極めて高いと言えます。

© 2026 BoostDraft, Inc.

05 AI時代だからこそ求められる真の生産性向上

今回の調査から、AIレビューツールや既存のWord機能だけでは解決しきれない、**契約書レビュー上の「細かな形式的作業」がいかに法務担当者の貴重な時間と精神的リソースを削っているか**という実態が浮き彫りになりました。

AIは、契約書のリスク判定や条文の要約といった「内容検討」をサポートしてくれるようになりましたが、一方で「条文番号のズレを完璧に直す」「定義語の揺れをくまなく検出する」「インデント崩れを的確に整える」といった、実務の現場で発生する“最後の詰め”の作業においては、依然として人間の目視と手作業に頼らざるを得ないのが現状です。

高い専門性を持つ法務人材が「形式チェックや手直し」というノンコア業務に時間を費やすことは、組織にとって決して無視できない**「見えないコスト」の流出**を意味します。さらに、形式面の不備による手戻りや再確認は、事業部門への契約書返却を遅らせ、ひいては**ビジネス全体のスピード低下という経営的な機会損失**も招きかねません。法務部門が真の生産性向上を達成し、経営や事業に資する「高付加価値な戦略的業務」にシフトするためには、**これら形式的作業をノンストレスかつ自動的に完結させる仕組み**が不可欠です。

次ページへつづく

© 2026 BoostDraft, Inc.

ここで見落とされがちなのが、**解決策そのものが新たな負担になりうる**、という点です。形式チェックを効率化しようと新しいツールを導入しても、操作の習得に手間がかかったり、使える場面が限られたりすれば、現場には根付きません。

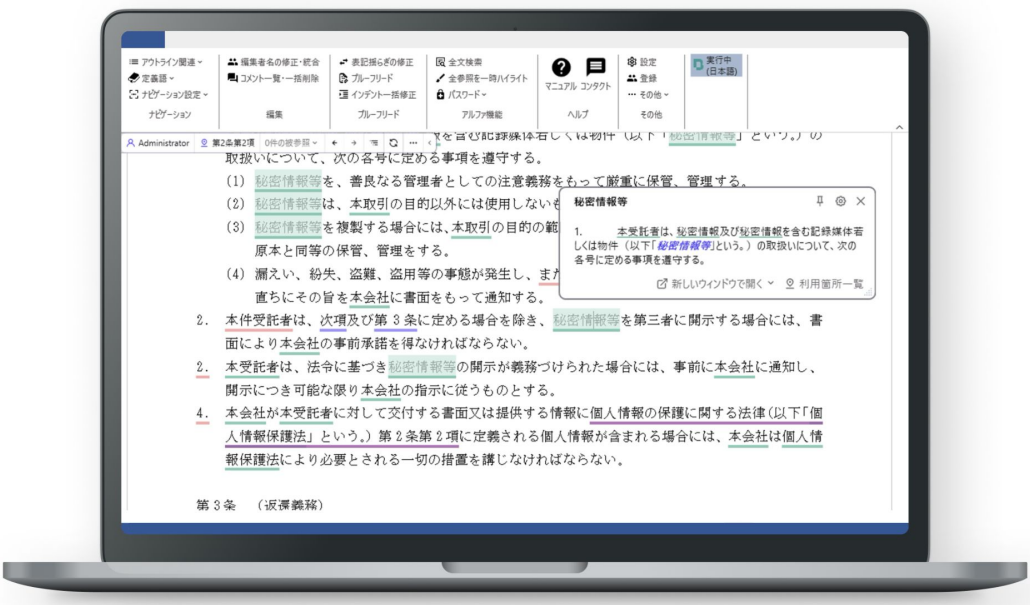
実態調査でも約半数 (49.5%)がWordの検索・置換機能を挙げたように、契約書実務のインフラは依然としてWordであることがわかりました。ツールや仕組みを「導入する」こと自体はゴールではありません。**現在の業務プロセスを最大限考慮しながら、実務者が「これなら安心できる」レベルで形式面を自動チェック・修正できる――この最適運用を見据えた仕組みの構築**こそが、これからの法務組織の生産性を左右するキーファクターとなるでしょう。

© 2026 BoostDraft, Inc.

法務向け総合文書エディタ「BoostDraft」で契約審査の効率化を実現

BoostDraftは、Word上で動作するセキュアな法務文書エディタです。
契約審査における体裁・形式面の作業の効率化を支援します。

BoostDraft



Wordで動作が完結

Microsoft Wordのアドインとして動作し、業務フローを見直すことなく利用が可能です。

高コストパフォーマンス

初期費用は一切不要。端末数に応じた月額料金のみで利用が可能です。

形式面の作業に特化

表記ゆれ、定義語の整合、インデントや条項ずれ確認等の「見えないムダ」を徹底的に排除します。

インターネット接続不要

基本動作は全てオフラインで完結。機密データ漏洩の心配がなく、セキュリティリスクを最小限に抑えられます。

© 2026 BoostDraft, Inc.

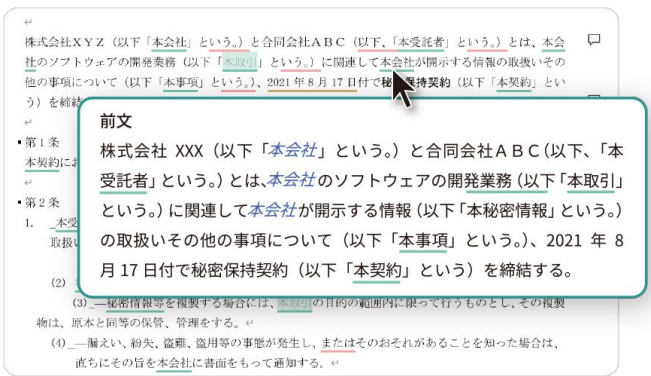
契約審査を効率化する「BoostDraft」の機能例

形式面の確認から解放し、**内容の検討に集中**できる時間を取り戻します。

ポップアップ＆ハイライト

ポップアップ&ハイライトで“探す”時間をゼロに

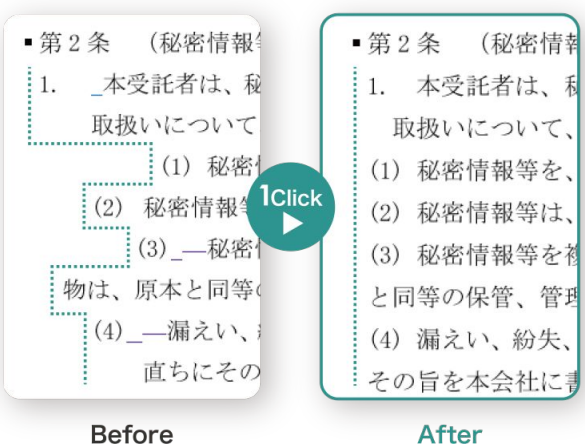
定義語・条項・法令・エラー箇所を瞬時に識別し、**ハイライト**、参照先の内容を**ポップアップ**で瞬時に確認。ページの行き来や検索不要で、読解の手間を削減します。



インデント自動一括修正

インデント一括修正で“面倒な微調整”をゼロに

任意のインデントを設定し、**1クリックで自動修正**。相手方との往復や複数人での編集で崩れたインデントを、手間なく瞬時に整えます。



＋ その他の機能

- 表記ゆれの修正
- 条項ずれの一括修正
- 修正履歴名の変更・複数履歴名の統合 など

© 2026 BoostDraft, Inc.

大手企業を中心とした800社以上が 汎用AIではなくBoostDraftを選ぶ理由

汎用AIと「BoostDraft」の違いを **5つの観点** で整理しました。

品質の安定したアウトプット を、**低コスト** でご提供しています。

BoostDraft		汎用AI
法務文書に特化した専用ツール。	位置づけ	汎用の推論・生成エンジン。
表記ゆれ・定義語のエラーなどルールベースで検知。**誰が操作しても同じクオリティをスピーディーに。**	アウトプットの安定性	出力がプロンプトに依存し、担当者ごとに品質がばらつく可能性あり。同じプロンプトでも結果が変わることも。
使い慣れた**Word上で動作が完結**。画面遷移なしで作業が完了。	動作環境	Word⇔ブラウザ・別アプリへの往復、コピー＆ペーストが必要で手間がかかる。
定額で上限なく利用可能なため、利用上限やコストの心配が不要。	コスト	トークン従量課金。上限到達や通信環境により遅延・利用不可のリスクあり。
主要機能はネット接続不要で利用可能。**情報漏洩のリスクが一切なし。**	セキュリティ	クラウドへのアップロードが必須。重要機密文書での活用を躊躇する場合も。

生成AIが普及した現在でも、四大法律事務所を含む

800社以上に導入 されています。

企業

すこやかな毎日、ゆたかな人生 Glico / LAWSON / Nestlé Good food, Good life / kikkoman おいしい記憶をつくりたい。 / JT / KADOKAWA / uni MITSUBISHI PENCIL / JP BANK ゆうちょ銀行 / ABeam Consulting / Canon / TOSHIBA / SBI Holdings

法律事務所

ANDERSON MŌRI & TOMOTSUNE / 森・濱田松本法律事務所 Mori Hamada & Matsumoto / 渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 Atsumi & Sakai / シティユーワ法律事務所 CITY-YUWA PARTNERS / NISHIMURA & ASAHI / 弁護士法人 淀屋橋・山上合同 YODOYABASHI & YAMAGAMI LPC / ASHI ASSOCIATES / 弁護士法人 御堂筋法律事務所 MIDOSUJI LPC ATTORNEYS AT LAW / 大江橋法律事務所 OH-EBASHI

© 2026 BoostDraft, Inc.

ご案内

最後までご覧いただきありがとうございました。
ご相談内容がございましたらお気軽にお問い合わせください。

事例をより詳しく知りたい方

BoostDraftを導入した企業が、どの作業でどれだけの効率化を実現したのかを紹介しています。

事例記事を見る

BoostDraftの機能をより詳しく知りたい方

プロダクトの概要や機能詳細、動作環境などについてご紹介しています。

サービス資料を見る

実際の使用感や費用を知りたい方

オンラインデモで実際の操作をご覧いただけます。実際の費用感もご案内いたします。

相談してみる

© 2026 BoostDraft, Inc.